

「住宅用火災警報器」大掃除に併せて点検をしてみてもいいかがですか。

住宅用火災警報器を点検したことがないという方は、年末の大掃除に併せて点検してみてもいいかがですか。警報器が古く電池切れや故障していませんか。

消火器をお持ちの方は、消火器も異常がないか点検してみましょう。

また、コンセントもホコリが溜まったりしていると火災の原因になる可能性があるため掃除しましょう。

住宅用火災警報器の点検・掃除のポイント

1 点検方法

点検方法は、住宅用火災警報器のテストボタンを押す、またはひもを引くだけで簡単にできます。

(音声メッセージまたは警報音が鳴れば正常です。)

2 交換目安

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため10年を目安に交換しましょう。

※製造年は住宅用火災警報器内面に記載されています。



3 お手入れ

固く絞った布で軽くふき取ってください。

※ベンジン・シンナーなど有機溶剤は絶対に使用しないでください。

※故障の原因になるため水洗いはしないでください。

コンセントによる火災にご注意を

トラッキング現象とは長い間差し込んだままになっているコンセントとプラグの間にホコリが溜まり、そこに湿気が加わるとプラグの両刃の間で放電操作が繰り返されやがて熱を持って発火してしまう火災です。

特に冷蔵庫やテレビなどの大型家電の裏のようにホコリが溜まりやすい場所や、脱衣所や台所など湿気の多い場所で使用しているコンセントなどは要注意です。

単純にホコリが溜まるのが原因となって引き起こされる現象なので、ホコリを取り除くことが肝心です。プラグを抜いて乾拭きするようにしましょう。

注意点

- プラグが折れると危険なのでやさしく拭くようにしましょう。
- コンセントの穴は触れると危険なので、間違っても中まで掃除しようとししないでください。

こんなところにも注意しましょう！

- コードは家具などの下敷きにならないようにしましょう。



普段手が届きにくい、タンスやテレビの裏など
この機会にぜひお手入れをしましょう！